

平成20年度障害者総合相談圏域支援事業(東和圏域)

年間活動報告

東和圏域マネージャー
村山政志

<4. 5月活動報告>

1、山間地の資源開発について。

①4月 28日 山添村訪問 健康福祉課へ着任挨拶。

森本氏(保健師)、吉村氏(保健福祉課)に、村内の福祉資源と社会資源の案内をして頂く。精神の地域活動支援センター(どうで)、身体の入所授産施設(大和高原太陽の家)、知的の通所授産施設(セルフ)、居宅介護事業所(社協)と、一通りの資源はあるものの、居宅介護事業所が人員が不足していて、充分な支援ができない。

村外の事業所は山添村まで派遣すると、往復の時間がかかりすぎて人件費を事業費でまかないので、参入していない。

高齢者率が30%を超えており、介護保険に人員を割り、障害者の介護に人手が足りないのが現状。在宅生活の下支えの仕組みが組み立てにくいので、障害者が他市町村、あるいは県外に入所している。

*直近の困難ケースを抱えていて、解決方法の糸口が見つからない。圏域マネージャーを交え関係機関と連携を図り早急に方向性を決める事になる。

・5月 14日 再訪。森本氏、吉村氏と面談。

村主催(あるいは社協主催)で、村内在住者対象の居宅介護従事者の養成講座を開催し、就労先に社協事業所にすれば、雇用にも繋がるのではないかと提案。村で論議する事になる。

②4月 30日 蒲原村訪問。住民生活課へ着任挨拶。磯野氏に村内の福祉・社会資源の案内をしていただく。保育園、小学校、中学校と共に障害児は在籍していないが、保健師さんや子育て支援(入園前保育)から、保育園、小学校、中学校、小規模作業所と連携を図って受け入れ体制は準備している。

村外者就労者が多く、障害児が出生した時に、県外(三重県)に転出されるケースもある。

社協運営の高齢者ケアハウス・ディサービス事業所が小規模作業所と隣接していて、交流なども考えて行くことも可能。

*作業所が様々なケースを抱えていて、支える仕組みができるない。ケース会議を開く事を薦めていくことで仕組み作りに参画していく。

③4月 30日 御杖村訪問。保健福祉課へ着任挨拶。中村氏に村内の福祉資源を案内していただく。

村内の在宅障害者の数が少なく、障害者のデイサービス利用が2名。

高齢者のケアハウス・ディサービス事業所が指定管理者で民間社会福祉法人に委託されている。入居者、デイサービス利用者の80%が村内在住者で、働いている人達も、80%が村内在住者で運営されていて、利用者が生き生きしている。

*障害者デイサービスが整備措置のため、新体制に移行することに悩んでおられた。後日、県自立支援給付係、米田

係長に相談。高齢者デイで基準該当事業者として、介護給付事業、訓練事業等を行うことも可能と助言を頂き、中村氏に提言する。村内で協議する。

④5月 14日 宇陀市訪問。自立支援協議会 廣瀬会長同行をお願いした。障害福祉課 着任挨拶。

その後知的障害者生活介護施設(アクティビティセンターうだ)に案内して顶いた。2カ所の作業所を統合し事業所立ち上げるが建物を改装中で、一方の建物で合同作業をさせて顶いた。

相談支援センター心構へ案内して顶いた。木村相談員と面談。

5月 28日に宇陀市・曾爾村・御杖村合同自立支援協議会が発足。

* 宇陀市福祉事務所が開わっている、軽法障害者の受け入れ準備のケース会議に参加させて顶いた。事務所立上げるが建物を改装中で、一方の建物で合同作業をさせて顶いた。

※ 宇陀市福祉事務所が開わっている、軽法障害者の受け入れ準備のケース会議に参加させて顶いた。事務所立上げるが建物を改装中で、一方の建物で合同作業をさせて顶いた。

2、重心を支えるネットワーク作り

・4~5月は活動していない。

3、相談支援センターの底上げ

*相談支援事業所が抱えている困難ケースに同行あるいはケース会議に参加して、方向性やニーズの核心をさぐる、サポート、アドバイスをしている。

4、その他の活動

・圏域内の事業所へ挨拶まわり。(その都度、ケースの相談があり、現在進行中のケース3件あり。)
・個別ケース会議参加。(着任前からのケース会議を引き継ぎ参加。2件)
・桜井市自立支援協議会生活部会参加
・地域勉強会参加

6月活動報告

①、山間地の資源開発

山添村の困難ケース会議を開催。本ケースを見ながらに、山添村の居宅介護事業の充実と、
3障害の資源のネットワーク作りにつなげるべく、森川課長補佐に同行頂き、山添村保健福祉課に、居宅介護の現状と方向性を聞かせて頂いた。本ケースでは、日常生活、日中活動、など、在宅生活の基本的資源の開発と維持が課題ではあるが、現在山添村にある、通所授産施設施設長、地域活動支援センターの代表者が、早い段階から、ケース概要を把握されており、意見を聞くことができた。現段階では、準備期間が必要であるが、関係機関が積極的に意見交換を重ねて頂くことができる。今後に期待を持ちたい。

宇陀市において、福祉事務所が関わっているケースで、軽法障害者の地域生活移行の取り組みをしておられる。現在仮設中であり、福祉事務所の責任範囲ではないが、本人が専用地域に帰つて来ることを前提にして、再び軽法行為を犯さない様な、受け入れ方を検索されている。

ケースワーカーに同行させて頂き、本人と面会した。今後は、相談支援センター心構、福祉事務所と連携し、面会を繰り返し、本人が望む生活をベースにして、地域移行プログラムを構築して移行体制作りを目指す。

するなど考えているらしいが、まだはっきりと方向性がでていない。後日、県自立支援給付係、米田

②、重心を支えるネットワーク作り

- 明日香養護学校の見学会に参加。さまざまな事業者や行政、保護者と意見交換をする。
- ケースとして身体障害者入所施設におられる方の地域移行を目指して、社協、居宅事業所、施設に連携して、まずは手始めに、本人の財産保全のために後見人制度についての協議を始めている。又相談事業所から、24時間かけの必要な在宅生活の人を支えている家族のケースの相談を受けた。現在利用している訪問看護や居宅事業所を交えて、今後の方向性を探りながら、それを連携してネットワーク作りのきっかけとしたい。

③、相談支援ネットワークの底上げ

- 各市町村から委託を受けている相談支援事業所を対象に事例検討会を開催した。それそれから提供していただいた事例の中から、一事例を参加者全員で、アセスメントする方法を行った。
- 今後も定期的(3ヶ月1回)に毎回事例を元にして、手法を変えた勉強会にして、個々のスキルアップと連携をはかりたい。

④、その他の活動

- 東和園域「まつと支援戦略プラン」の拠点センター設置を市町村に周知して頂く為、森川課長補佐に同行をお願いして、山添村、桜井市を訪問。

- 「相談支援従事者指導者養成研修」を受講させていただく。人材育成の重要性や相談支援の再認識や、都道府県での研修の再構築などさまざまな課題を課せられた。自ら積極的かつ、有効に活用していかたい。

2、重心を支えるネットワーク作り

- 明日香養護学校の宇陀地区、桜井地区的地域懇談会に参加。重心の児童、生徒、卒業生、保護者、身体の卒業生、教員、行政、事業所などさまざまな立場の人が集まつて、現状や要望、課題を話し合つた。共通していることは、卒業後の進路先が限られていることや、今現在利用できる福祉サービスが少ない、医療的支援が必要なだけ受けられない、結局家族が介護を続け、力尽きたからそれまでなのかどうか意見が多く挙がってきた。さまざまな訴えを受けた。行政の担当者の方々は、財源不足や資源不足で、なかなか要望に応えることは難しいが、できる限りの事はする。と、苦しい財政状況の中で、現実目の前にいる、重度心身障害者やその家族を目の当たりにし、心を揺さぶられるが、応えをその場で出せないという、まさしく断腸の思いで、返答をされていた。
- 地域には、表に出でていない重心の人を家族と訪問看護と介護事業所が協力して、1日、1日を刻むように毎日の生活を維持している。しかし24時間を支える大半は家族が受け持ち、そのほとんどの人々が限界に達している。県下には重心の人が利用できる施設や病院は数ヵ所しかなく、利用できている人は幸運で、在宅生活を続ける人達は周囲も含めて不安定で、脆弱な基盤の上で、将来の安心を保障されない。いまこそ、現状をつぶさに見てまり、緊急対応しなければならないことは、すぐに対策を入れる必要があり、同じ奈良県に生まれ、幸せな生活があつてはならないと感じた。
- 明日香養護学校で行われた「肢体不自由教育理解発研修会」に参加。麻痺を持つ人々や、教師が手作りした教材を、使った発表会を見せて頂き、それぞれの生徒児童に合わせて、教師が手作りした教材を、実際に体験したり、それぞれの生徒児童に合わせて、教師が手作りした教材を、使った発表会を見せて頂いた。

3、相談支援ネットワークの底上げ

- 相談支援を福祉課の窓口で対応されている市町村に働きかけて、相談支援は自立支援法を健全に運営するための絶対不可欠な事業であることを伝え、委託に向けての準備をしていただきたり、当面窓口担当者が相談支援員を兼務される方には、相談員と行政職員との立場の違いを理解していただく様に話をさせていただき、実際にケース会議の主催をお願いする事になった。

④、その他の活動

- 二階堂養護学校の天理地区地域別懇談会に参加。天理の資源の状況や保護者の思い、事業所の現状などが話題された。園球マネージャーが見た天理の課題についての意見を求められた。「自立支援協議会がないのはなぜか?」などについての質問があり、地域住民が「これが天理の課題だ」と提言し行政と共同して作る協議会でなければいけない。あわててつづくつて、機能しない協議会なら少々遅くなつても構わない。と提言させていただいた。
- 市町村審査会委員養成研修修了。現に審査会委員を務めておられる方々が多く参加され、区分認定の基準について、不安や不満を伴つておられる方々多かったです。実際に独自の取り組みで公平・公正な判定になるよう研究している市町村もおられた。講師から、審査委員の役割の大切さを、具体的な話で委員の方々に訴えられて、改めて審査委員の難しさを感じた。
- 宇陀の地域事務所を訪問して回った。本庁とは違い、地域住民の相談を窓口が一手に引き受けている。
- 障害者の相談は数例あり、資源が無いことや情報の少なさを訴えられた。園球マネージャーの存在が知られていて、まだまだフットワークの悪さを感じた。

7月活動報告

1、山間地の資源開発

- 御杖村の経過的ディーサービスの移行をどのようにすればよいかと、担当者と検討した。高齢者 ディーサービスに組み入れるか、近隣ネットワークを作るかを村で論議して貰うことになる。
- 宇陀の地域事務所の相談は数例あり、資源が無いことや情報の少なさを訴えられた。園球マネージャーの存在が知られていて、まだまだフットワークの悪さを感じた。

・天理の児童のヨーツライや児童デイサービスを行っている事業所の勉強会に参加させていただく。現状は利用者が自分の施設に利用の相談にくるが、定員いっぱいで断ることがある。しかし、その保護者はやつとの思いで相談してきたのかかもしれない、利用を断ることで力尽きてしまうのではないか。そこで近隣の事業所がネットワークを組めば、次の相談につなぐ事ができたり、それそれを相互利用することにより沢山の利用者のニーズに応えることができるのではないか。というような話し合いの場だった。これから定期的に開催されるよう、毎回参加させて頂くことになった。

・平成 20 年度相談支援従事者初任者研修のプログラム作成を 6 月に埼玉県で行われた、平成 20 年度相談支援従事者指導者養成研修に参加した、県障害福祉課 坂戸様、西和田町マネージャー 鈴木様 相談支援センターのどか 松村様の 4 人で検討して、8 月には作成予定。

<8・9月活動報告>

1、新体系移行相談

9月8日	福祉作業所(老人福祉センター管理)	移行・社協運営の高齢者デイサービス事業所へ基準該当事業所指定で「生活介護」を委託。 人件費・運営費等、事業費で不足する費用は村が予算を付ける。	老人福祉センター・健康福祉課 社協で協議し、予算請求予定	7月に左記の手順で移行するよう、話しをしていた健康福祉課担当者が 8 月で異動。 新任者と連携がとれておらず、再度 18 日に説明に行くが、委託法人に断られ、健康福祉課内でも、協議進まず。 現在経過的デイサービスのスタッフを派遣。人件費・運営費等、事業費で不足する費用は、村が予算をつける。
9月17日	経過的デイサービス(社協運営調2回開催)	移行・公認の施設で、指定管理者制度で民間法人に委託している高齢者デイサービス事業所へ基準該当事業所指定で「生活介護」を委託。	8月5日県人材育成部会 8月7日県自立支援協議会運営委員会 8月7日東和園就労ネットワーク会議 8月8日相談支援従事者研修打ち合わせ会議 8月20日奈良県障害者アマネジメント指導者研修打ち合わせ会議 9月2日相談支援従事者研修打ち合わせ会議 9月2日奈良県障害者アマネジメント指導者研修第 2 日打ち合わせ会議 9月3日相談支援従事者研修打ち合わせ会議 9月16日県人材育成部会 9月24日サービス管理責任者研修打ち合わせ会議 9月30日県自立支援協議会運営委員会	10月に再度訪問して、再協議予定。

2、重症心身障害児・者への取り組み

8月24日	重症心身障害児・者勉強会「ホームヘルパーと重症心身障害児・者とのふれあい」
9月4日	重症心身障害児家庭訪問。
9月5日	明日日香養護学校 田原本地区懇談会
3、相談支援体制の底上げ	
9月25日	奈良県障害者アマネジメント指導者研修参加者(スタートライン)打ち合わせ会
9月26日	題 2 回市町村委託支援事業所事例検討会
4、市町村勉強会	
8月5日	高等養護学校生徒・保護者・教師勉強会(天理市 就労継続支援 A型 大樹)
9月2日	桜井市生活支援部会打ち合わせ会
9月16日	二階堂養護学校宇陀地区保護者勉強会
5、個別ケース会議	
8月25日	山添村ケース会議
8月28日	宇陀市ケース会議
9月12日	桜井市ケース会議
6、研修	
8月26日	自閉症研修会「自閉症を正しく理解すること」
8月27日	就業支援セミナー
8月29日	認知症在宅介護勉強会
9月1日・9日	奈良県黒障害者ケアマネジメント指導者研修
9月6日	奈良県部落解放研究集会
9月25日	障害者雇用推進フォーラム
7、会議	
8月5日	県人材育成部会
8月7日	県自立支援協議会運営委員会
8月7日	東和園就労ネットワーク会議
8月8日	相談支援従事者研修打ち合わせ会議
8月20日	奈良県障害者アマネジメント指導者研修打ち合わせ会議
9月2日	相談支援従事者研修打ち合わせ会議
9月2日	奈良県障害者アマネジメント指導者研修第 2 日打ち合わせ会議
9月3日	相談支援従事者研修打ち合わせ会議
9月16日	県人材育成部会
9月24日	サービス管理責任者研修打ち合わせ会議
9月30日	県自立支援協議会運営委員会

8、その他

今後の取り組み予定(10月)

9月 18日	「地域における拠点機能に着目した事業者支援事業」審査会参加	
9月 22日	奈良県障害者ケアマネジメント指導者研修を受講した「スターヒーライン」のメンバーで達成目標にあげた、「2009年10月までに、磯城郡3町と天理市に地域自立支援協議会を立ち上げる」を実行するために、磯城郡3町の担当者と合同会議を行った。	
9月 22日	奈良県障害者ケアマネジメント指導者研修を受講した「スターヒーライン」のメンバーで達成目標にあげた、「2009年10月までに、磯城郡3町と天理市に地域自立支援協議会を立ち上げる」を実行するために、三宅町社協担当者、田原本町社協担当者へ協力依頼。	
9月 24日	奈良県障害者ケアマネジメント指導者研修を受講した「スターヒーライン」のメンバーで達成目標にあげた、「2009年10月までに、磯城郡3町と天理市に地域自立支援協議会を立ち上げる」を実行するために、川西町社協担当者へ協力依頼。	
	5月に行われた人材育成部会で、山岡部会長から提案いただいた、先進地視察の案「地域移行の実践地見学」の中で、「罪を犯した障害者の地域生活支援に関する研究」に取り組んでいる南高愛隣会の事を教えて頂いた。自分が抱えているケースで現在服役中の方がおられ、出所後の地域生活移行の手がかりをつけめないまま、ケース会議を繰り返していたので、ホームページで研究報告書を読んだ。	
	協力研究報告書の中に、入所者全員が知的に「生きづらさ」を抱え、社会で受け入れられない「問題行動」を犯した人達を支援している、社会福祉法人紫野の会 入所更生施設「かりいほ」の存在を知り、8月10日から15日まで、体験に行かせてもらった。	
8月～9月	実践している施設長・職員・入所者と合い、特別な支援はない。「人に對「人」が基本と教えてアドバイザーの関口清美氏から、法務省と厚生労働省の共同事業「地域生活定着支援事業」の情報をいたいた。	
	訪問して接点ができる、「かりいほ」の石川 恒施設長、栃木県東央圏域障害者相談支援アドバイザーの関口清美氏から、法務省と厚生労働省の共同事業「地域生活定着支援事業」の情報をいたいた。	
	当初はモデル事業で、全国で3カ所(国立のぞみの園・群馬県、南高愛隣会・長崎県、滋賀県社会福祉事業団・滋賀県)に事業委託し、その後、8カ所に広げ、各都道府県に1カ所、センターを設置する方向になつた。厚労省の研究チームは触法障害者の再犯防止、地域移行が目的だったが、7月頃に政府・民主党が「犯罪白書」で再犯率の高さに驚き、障害のあるなしに関わらず、全ての矯正施設出所者を対象に広げた。	
	奈良県として、センター立ち上げに関する情報収集等の必要性を感じ、「かりいほ」との交流を企画(11月19日～22日まで)。また、対象ケースの関係者とプロジェクトチームを立ち上げ、矯正施設(刑務所)との連携を図り、収監中の定期的な面接のプログラム作成、先進地視察として、南高愛隣会東京事務所、栃木県のプロジェクトチームとの情報交換をおこなつていてる。	

1、新体系移行相談
福祉作業所、経済的デイサービスの2事業所の新体系移行

日程 調整中	曾爾村移行進捗状況・具体的手続きの指導
日程 調整中	御杖村移行進捗状況・民間法人との協議に同行。村への今後の福祉施策への問い合わせ

2、重症心身障害児・者への取り組み

日程 調整中	ケース家庭訪問。その後関係者のケア会議開催。
10月 12日	重心介護教室
10月 23日	重心ネットワーク会議
10月 26日	重心介護教室

3、市町村勉強会

10月 8日	天理事業所ネットワーク勉強会
10月 21日	桜井市勉強会

4、研修

10月 3・6・8・ 16・17・24日	相談支援従事者研修
-------------------------	-----------

5、会議

10月 1日	認定調査員、市町村審査会委員合同研修打ち合わせ会議
10月 2日	桜井市自立支援協議会
10月 7日	相談支援従事者研修演習打ち合わせ会議
10月 22日	県自立支援協議会

6、その他

10月 18日	「スマートの幼児教育・障害児教育について」講演会
10月 20日	磯城郡3町に自立支援協議会をつくる!社会福祉協議会担当者合同会議
日程 調整中	触法ケース会議

<10・11月活動報告>

3、相談支援体制の底上げ

		今後の取り組み	
11月4日	奈良県障害者ケアマネジメント指導者研修参加者 (スターとライン)第2回打ち合わせ会	それぞれが役割を決めて、ネットワークを構築していく。福利厚生の手始めとして、忘年会を予定。自立支援協議会について、豊城郡3町、天理市担当者レベルで会合を持ち、設立に向けて合意を得た。議城郡3町社協とも連携をとることになった。天理市では、相談支援センターと行政を中心にお話しを進めていくが、事業所、団体はスターとラインが話しを進めしていく。天理市が先に設立に向けて動いている。	今後の取り組み
11月28日	第3回市町村委託支援事業所事例検討会	これまでには、委託事業所に限っていたが、参考したいという声が増え「委託」を外し、「東和園町相談支援事業所事例検討会」に変更。それぞれの抱えている困難ケースを、参加者がケア会議の一員として協議する方法にしていく。	今後の取り組み
4、市町村勉強会			
10月8日 11月13日	天理市事業所勉強会	事務局をそよかぜ竹田氏なごみ竹村氏にお願いして、いざれ天理相談支援センターにお願いする。 事業所の個人個人が抱えている悩み、支援のあり方など、さまざまテーマで話し合い、連携を深める。	今後の取り組み
10月14日・ 11月26日	今後の取り組み 経過的デイサービス(社協運営週2回開催) 移行:民間法人に委託している高齢者デイサービス事業所へ基準該当事業所指定で「生活介護」を委託したが、準備不足を理由に断られた。村单独で現在経過的 御杖村デイサービスの継続に決定。 担当者が8月に移動になり新任者が、混乱している。 空回りしている。	今西課長補佐、平尾保健師を交えて 今後の「障害福祉」についての意見書 を提出。内容を協議してもらい、遊休施設など利用して、高齢者と障害者が、地域住民の支えになるよう長期的に施設を考えてもらうことで合意。今後は頻回に足を運び、小村ならではの おこしな方向性を考えていくことに なった。	今後の取り組み

1、新体系移行相談
福祉作業所、経過的デイサービスの2事業所の新体系移行

		今後の取り組み	
10月12日・ 10月26日	重症心身障害児・者勉強会参加 「静的弛緩誘導法」「正しいオムツの使い方」	毎回重心人と触れ合ったり、家族の話などを聴き、自分達がやらなくてはならないことが、わざわざながら見えてきて、現状把握の仕組みではなく、すぐに使えるサービスや勉強会などを、団体の中でもおこないたい。	今後の取り組み
11月7日	重症心身障害児・者家庭訪問。		
11月8日 11月23日	明日香養護学校 田原本地区懇談会 第1回重心ネットワーク会議		

		今後の取り組み	
10月12日・ 10月26日	重症心身障害児・者勉強会参加 「静的弛緩誘導法」「正しいオムツの使い方」		
11月7日	重症心身障害児・者家庭訪問。		
11月8日 11月23日	明日香養護学校 田原本地区懇談会 第1回重心ネットワーク会議		

2、重症心身障害児・者への取り組み

5、研修	
10月 3日	
6日・8日	相談支援従事者研修
16日・17日	
24日	
10月 18日 デンマークの幼児教育・障害児教育について	
3、相談支援体制の底上げ	
6、会議	
10月 1日	県人材育成部会
10月 2日	桜井市自立支援協議会
10月 7日	相談支援従事者演習打ち合わせ会議
10月 22日	県自立支援協議会
11月 14日	圏域ワーキング会議
11月 18日	桜井市自立支援協議会生活支援部会
7、その他	
10月 9日	横浜市食肉市場 人権推進連絡協議会 主催「2008年人権講演会と交流会」
10日・11日	
11月 10日	入所更正施設 ポイス 入所者地域移行への話し合い
11月 10日	障害者支援センターふきのとう ポイス入所者地域移行への話し合い
11月 19日	栃木県大田原市 入所更正施設 カリイほ 訪問
20日 21日	
22日	
今後の取り組み予定	
1、山間地の資源作り	
山添村が、相談支援や自立支援協議会設立に向けて大きく動き始めている。情報提供や連絡調整係となり近隣の相談支援センターとの連携を進める支援をしていく。	
曾爾村、御杖村は同じ様な課題を抱えており、具体的な策を行政、事業所と連携を取りながら、中・長期的な戦略プランを協議していく。	
宇陀市は、相談支援センターと連携して、個別ケースを課題として浮き彫りにして自立支援協議会を活性化していく。又、軽法障害者の地域移行についてもプロジェクトチームを立ち上げる。	

10月 3日	
6日・8日	
16日・17日	
24日	
10月 18日	デンマークの幼児教育・障害児教育について
6、会議	
10月 1日	県人材育成部会
10月 2日	桜井市自立支援協議会
10月 7日	相談支援従事者演習打ち合わせ会議
10月 22日	県自立支援協議会
11月 14日	圏域ワーキング会議
11月 18日	桜井市自立支援協議会生活支援部会
7、その他	
10月 9日	横浜市食肉市場 人権推進連絡協議会 主催「2008年人権講演会と交流会」
10日・11日	
11月 10日	入所更正施設 ポイス 入所者地域移行への話し合い
11月 10日	障害者支援センターふきのとう ポイス入所者地域移行への話し合い
11月 19日	栃木県大田原市 入所更正施設 カリイほ 訪問
20日 21日	
22日	

<12・1月活動報告>

1、山間地

2、重症心身障害児・者の取り組み

福祉作業所、地域活動支援センターの移行、福祉障害者受け入れ準備、入所施設からの地域移行

1月 25日	今後の取り組み	
12月 12日、26日 1月 13日	<p>・地域活動支援センターへふれんどに現在のⅢ型からⅣ型に移行するよう市から提案があり、その事について相談を受け、人員の配置基準などの確認、運営等について協議をした。</p> <p>・すずらん福祉作業所に訪問。少人数で、アットホームな雰囲気がとてもよく、美味しいツッキー作りと、きめ細やかに繋り上げられたさおり織りの作業が行われていた。21年中にあおぞら作業所と合併して新体系でアクトハイドとして新しい建物で、活動することになつており、この場がなくなつてしまふのは少しもつたない気持ちになった。自立支援法になり、このような形態の作業所が減っていくのは寂しい。</p> <p>・厚生保険課・相談支援センターへ心境と連携して、端正相談所、連携して新しい資源(人)がつくれるように、時間をかけて足をつかれてみたい。</p> <p>宇陀市</p> <p>・厚生保険課・相談支援センターへ心境と連携して、端正相談所に収監中の人への今後対応策を協議した。厚生保険課の人達の熱意が感じ取られて、みんなと一緒にやつてこようという気持ちが高まつた。</p> <p>・端正施設収監中の人のケースに関する面談申しあげ、『地域定着支援センターへの面談申しあげ』、「地域定着支援センターのモニタリング事業に取り組んでいる3つの法人のケア企画に参加。入所施設から毎日他の事業所へ就労を目指して頑張つている人で、どんな暮らしをしたいか?本人、お母さん、施設職員、障害福祉課と協議した。</p> <p>結果は、もう少し自信がつづくまで、今の施設で頑張る事になった。自分の生活を、自分の意見ではっきりと言える事はとても大事です。認職員もお母さんも、障害福祉課、みんなで応援します。</p> <p>ケースをちどにした、保健福祉の見直し</p>	<p>・重症心身障害教室。バルツア・ゴーデルの精神科医難波克雄氏を講師として「重症児者の医療・看護・介護の考え方」をテーマに話を聞く。重症心身障害者の定義や介護歴史の変遷、現状などわかりやすく、やわらかな口調でお話していただき、知つたうな氣になつたが、実は全く知らないかったということを思い知らされたと共に、今後早急に必要な支援や自分がやるべき事が見えてきた。</p> <p>・先進地の事例などの情報を集め、良モデルを考える。</p> <p>3、相談支援体制の底上げ</p>

12月 9日、1月 9日、 1月 19日	今後の取り組み	
天理市	<p>・相談支援センターへ障害福祉課窓口に寄せられた相談を、3ヶ所の事業所の相談支援専門員と障害福祉課担当者が、調整会議をしている場に参加させていただき、時々アドバイスをしている。</p> <p>天理市相談支援センター</p> <p>・眞面目に取扱ふんでおられるが、まだまだセンターの存在が知られないようだ。広報に載せたり、公共窓口でチラシを置いてあるが、自ら相談事業所に相談する事をためらっている人達がおられると思う。できれば、アドリーチできるような時間や曜日が取れた方が良いと感じられる。</p>	<p>・個人情報を守るために会えてケースの相手は挙げないが、やはり自ら相談してくれるケースが少ない。</p> <p>(制御さんも含め)</p> <p>センターの用意を図るためにも、相談員がアドリーチできるように方策を考え検討していただきたい。</p>
1月 30日	<p>・前回報告したように今回から市町村委託をはずしたところ参加者10名と過去最高。前回提出された事例の報告と今後の中・長期的支援の方法を協議したが、相談者が、家族が同居してみて今は向かないという事で、本人に対しての支援の意識に欠けているを感じた。今後での事を伝えていく方法を、具体的に</p> <p>第4回相談支援事業所事例検討会</p> <p>・ひなた舍山口氏から、今後の事例検討会のあり方にについて司会持ち回りや、技術の演習などの取り入れが提案されたので、一回持ち帰つて各自で考えてもらいたい。次回再度議論することにした。</p>	<p>わかりやすく説明しないと納得がでいることでも確認できた。相談支援の基本的な「本人主体」ということを徹底的に組み込んでいくと考えた。</p>
山添村	<p>・保健福祉課にて、現在在学中の人の地域移行について、セルブする事の協議を2月に行う。</p> <p>その後、保健者から、入所更生施設へいくことが伝えられる。山添村として、3年先を目指し、地域への移行を進めらるよう準備する事を保護者に伝える。</p>	<p>・自立支援協議会設立へ向けて準備会を開催。委員として参加</p> <p>・その後の山添村の保健福祉を見直し必要な物を取扱選択して資源を開発する。(すべて合意済み)</p>

4、市町村勉強会

12月8日、1月21日	・スマイルにて6事業所が集まり連携について話し合う。若い職員層が多く、皆、他の事業所の動き方や新しい人脈、知識を求めている。連携にござることなく、ミニ研修なども必要か?	今後の取り組み
天理市事業所 勉強会	・おおぞら福祉作業所に3つの事業所から6名と吉野先生が参加して「それぞれの事業所の現状と課題の報告」をテーマに話しあつた。育成会系の事業所が2カ所参加したこともあり、利用者の高齢化と家族との付き合いでの問題やマンパワーの不足、賃金の低さ、支援センターへの認定の低さなど、これまでとは違った話題が挙がった。 家族とのやりとりはほとんどが自分の子供の事についての事が多く、将来は入所への考えを聞かされ、モチベーションがさがっててしまうことや、支援センターを通じて他のサービスの情報を獲る所とすると「あんたがくわたらいいとか見捨てるのかなど苦情処理ばかりになつていて」というふうにしたい。また、若い参加者が多く、慣熟と馴染み開きがあるのが気になる。	今後の取り組み
1月13日	・放課後支援の現状化に向けて、統合される人権センターと人供センターの貸館を利用して、来年度の夏休みに東人権文化センターを利用し、育成会が、養育銀行の助成金を申請して運営に当たることに決まった。 今後、自立支援協議会生活支援部会に提案して、福祉課、市民課、教育委員会に周知してもらい、許可を貰えるよう働きかけていく。 事業所扶助金や勉強会を開催して欲しいとの要望があり、次回以降の検討課題になつた。	今後の取り組み
5、事業所勉強会		

6、研修・講演会

12月6日	第1回奈良県自立支援協議会 療育・教育講演会
12月10日	「こころのハシリアリー」社会福祉法人 前ひなた舎 主催
12月18日	「治療共同体カリキュラム(TCG)トレーニング 奈良ダルク研修センター 主催
12月20日	「家族療法・家族援助の実際」児童相談所とその近接施設における家族療法・家族援助の実際実行委員会主催
1月10日	「障害者が安全に働き続ける社会にⅡ」なら西和障害者就業・生活支援センター主催
1月14日	「障害者就労支援セミナー」奈良労働局・奈良障害者職業センター主催
1月26日	「罪を犯した知的障害者の自立と社会復帰を考えるセミナー」滋賀社会福祉事業団主催
7、会議	
12月2日	県人村育成部会
12月19日	県人村育成部会・県運営委員会
1月20日	桜井市自立支援協議会生活支援部会
8、ケース会議	
12月22日、12月26日、1月13日	
9、その他	
12月4日、5日	社会福祉法人 すいせんの里 自閉症施設 すだちの家 県立支援センター主催 見学会
12月13日	地域生活を考える会
12月14日	東和園緑年会 スタービーライン主催
1月24日	西宮相談支援センター あい 原田氏 ケース会議
今後の予定	
1、山間地の資源作り	
2月12日 山添村	相談支援事業の委託・自立支援協議会準備会・第2期計画策定 等の協議
2、重症心身障害児・者の取り組み	
2月21日	ケアマネジメント園域研修 「横浜に学ぼう」～重症心身障害児・者の地域生活支援の為に～

御杖村3月16日	今後の御杖村の社会資源となりうる、「フレキシブル支援センター」の設立についての説明。	今後の課題 運営主体がどこになるか行政と検討が必要
曾爾村3月16日	8月に担当者が移動。現在の小規模作業所について、再検討。	今後の課題 将来構想をイメージしてもらう為の制度の理解
2. 相談支援事業の底上げ		
天理市相談支援センター3月10日	個別事例へのアドバイス	今後の課題 自立支援協議会においての相談支援センターの役割の明確化
天理市勉強会		
桜井市勉強会 3月16日	夏休み放課後支援の計画検討	今後の課題 指導員・ボランティアの養成研修の方法
天理スマイル 勉強会 3月8日	障害者自立支援法と地域自立支援協議会について	
宇陀市ケア会議 3月9日		
4. 個別支援会議		
南高愛隣会中央 研修3月11日～ 13日	「要援助刑余者(罪を犯した人)の地域生活支援の実際」について	
奈良ダルク研修 3月29日	リカバリーダイナミクス研究会「回復の力学」	
5. 研修		
山添村3月6日	どうで訪問・上田氏と面談「フレキシブル支援センターについて話し合う。現在のどうでの活動は精神障害者を中心とした、地域活動支援センターと就労継続B型を行っている。	今後の課題 高齢者率の高い山間地で資源としての「高齢者」をいかに活動していくのか、また、行政がどの程度支援していくのかを、明確に説明して、将来的展望を示す必要がある。
南和園球講演会 3月1日	「発達障害について考え方」	今後の課題 国立特別支援教育総合研究所の藤井茂樹氏による発達障害児・者の現状と療育のあり方の話しがある。発達障害児・者の資源の少なさや、特別支援教育の難しさをクリアするため、勉強会などを開催。

<3月活動予定>

1. 山間地の資源開発	山添村3月6日	どうで訪問・上田氏と面談「フレキシブル支援センターについて話し合う。現在のどうでの活動は精神障害者を中心とした、地域活動支援センターと就労継続B型を行っている。	今後の課題 高齢者率の高い山間地で資源としての「高齢者」をいかに活動していくのかを、明確に説明して、将来的展望を示す必要がある。
2. 地域活動	山添村3月6日	地域活動センターには、手帳を持つおられない方や高齢の方もおられ、まさしく「フレキシブル」な活動をしている。奈良県のモデルケースとして是非この制度を利用して、山間地の新しい社会資源の形を形成するためにも、「フレキシブル支援センター」をやって頂きたいと思う。	上田氏が、村と交渉をして頂く事を確認。
3. 相談支援体制の底上げ	2月 24 日、27 日 月3日	相談支援専門員現任者研修	この制度は山間地の社会資源にもつどもできしていると思われ、御杖村、曾爾村にも相談していきたい。
4. 市町村勉強会	2月 26 日	天理市障害者福祉相談員研修会	

奈良ダルク 講演会 3月28日	薬物依存からの回復「立場を越えた回復支援」
-----------------------	-----------------------

7、自立支援協議会	研修の為欠席
県自立支援協議 会運営委員会 3月11日	
県自立支援協議 会全体会 3月17日	
桜井市自立支援 協議会全体会 3月25日	
県自立支援協議 会中和園域 キャラバン 3月26日	

8、その他	奈良県手をつなぐ育成会主催の第2回奈良県知的 障害者相談員研修の講師を務めた。 地域自立支援協議会の役割と障害者相談員の役割 について説明。 障害者相談員が親でもある人達の悩みなどの話し があつた。	今後の課題 個人情報保護法があり、なかなか家庭内に入り込む事のむつかしさ や、現在の社会的状況が相談員達の活動の壁となっていることを聞か れ、小さなコミュニティの再構築が必要と感じた。
東和園地退院促 進連絡会 3月18日		
県事業所説明会 3月19日		